

円満寺だより

令和六年 あじさい季

住職法談

境内のアジサイも見ごろとなりました。あつという間に半年が過ぎ年を重ねるごとに時の流れが速くなるのを実感します。

NHKの「ちこちゃんに叱られる」という番組で、年を取ると一年が早く感じられるのは、「人生にトキメキがなくなつたから」との答えでした。大人になると毎日同じ作業の繰り返しに感じられ、印象に残る出来事は少なく、トキメキやワクワクを忘れてしまった大人たちの一年はあつという間に過ぎてしまうとのことです。

今年、特に速く感じます。開山四〇〇年記念事業の準備と執行、そして「子ども・夢・花火大会」の準備へと続いたからかも知れません。

さて、話題を変えて、六月初め、大学時代の仲間が慰労会を開いてくれるというで寺庭（家内）と上京しました。昔話より、もっぱら健康の話が中心でした。

上京したついでに、翌朝一番で京都に向かい、甥の車を借りて奈良へ。長谷寺と国立博物館の空海展に行ってきました。その日は新装になった本山の宿坊に宿泊。翌日は、近くの泉涌寺と新庄市升形出身の泉さんという方が住職をされている西京区の十輪寺（別称・業平寺　なりひらでら）を訪ねました。

住職は九十四歳。足腰が弱くなつたと

はいうもののとてもお元気

で、新庄弁と

方言の研究に

取り組んでい

ること。とても澆溉と

したお姿に、大変刺激を受けました。



人、モノは、語らずとも語りかけてきます。語りかけを「受け止める力」があるか、それは「心の在り方」で変わつてきます。私は、悟りは「気づく心」だと思っています。人生を悟れなくても、投げかけに気づく心があれば、悟りの世界に近づいていくと思うのです。いずれ近づくだろうという待ちの時間も必要だと思うのです。

「若氣の至り」という言葉があります。間違いを責めるのではなく、更生保護（慈悲）による、本人の気づく心を待つことも大切であると思うのです。

人とモノに会うことで自分の置かれた状況が明確になることがあります。元気な人と会えば元気をいただき、良いものを鑑賞すると心を揺さぶられます。

千二百年前、弘法大師空海は、日本に、密教・即身成仏、まさに生きながら悟る教えを伝えました。九十四歳の老僧は、密教こそすべてを包み込む素晴らしい教えだと、何度もおっしゃっていました。

密教の經典に「理趣經」というのがあります。真言宗の根本經典です。そこには、「人間の行動や考え、當みは本来不

淨なものではない。それらの欲を誤った方向に向けたり、自我にとらわれたりする場合が問題なのだ。小欲ではなく世の為という慈悲の大欲を持ち、衆生の為に生死を尽くすまで生きることが大切である」、「清浄な気持ちで汚泥に染まらず、大欲を持つて衆生の利益を願うのが人の務めである」と説かれています。

私たちは決して一人では生きていけません。宇宙の中で生かされていることに気づき、報恩感謝の世界が広がるよう精進する。まずは「ありがとう」の言葉で感謝を伝えることにいたします。



五月十二日（日）午前九時に、歓喜天堂内陣幕、山門幕が奉納され、山内安全、関係者一同の無事息災を祈つて、大護摩祈祷を行いました。

開山記念事業

●内陣幕、山門幕の奉納と祈願祭

午前九時、鍛冶町のはぐくみ保育園をお借りして、支度開始。
午前十時、衣装を身に着けた三十名のかわいらしい稚児さんたちが、先導の坊さんたちの後ろに続いて、保育園前を出发。

鍛冶町、中山町、木栄町を練り歩き、円満寺の山門をぐるり境内を一周。沿道の皆様からも、法要においてになられた皆様からも、大歓声を受けました。

稚児行列参列

者全員での記念撮影のあと、洒水加持と家族ごとの写真撮影を行いました。



記念品とおみやげが授与されて、公民館での着替えとなりました。
前九時に、歓喜天堂において、歓喜天堂内陣幕、山門幕が奉納され、
さわやかで心に響く法要となりました。
終了後、武田一夫氏（元新庄市教育長）
より、当山の歴史を戸澤家との関係から
分かりやすく講演していただき、法要に花を添えていただきました。

●記念法要

正午から本堂にて、旧戸澤藩第十五代当主である戸澤充氏をはじめとする来賓の方々ご列席のもと、一般参列者八十名により記念法要が行われました。

振る舞いコーナーには焼きそばとあんこ餅を用意しました。

NHKと山形新聞の取材があり、テレビで放映され、新聞にも掲載され良い記念となりました。

参加された方々や沿道の方々から喜んでいただき、本当にうれしく思いました。

●記念祝賀会

法要終了後、会場を庫裏に移して、土佐やの弁当と振る舞い餅を食しながら談しました。
和やかな宴となりました。

●記念品の紹介

伐採した境内の桜の木で箸を製作し、夫婦箸を用意しました。もう一つは、手ぬぐい。山門の風景を絵柄にし、円満寺の御詠歌を揮毫（きごう）しました。

●記念品をお分けします。

- 夫婦箸 八〇〇円
- 手ぬぐい 一〇〇〇円

〈開山四百年記念品〉

- 歓喜円満桜箸
- 手ぬぐい



〈円満寺御詠歌〉

- 日時 令和六年九月二十九日（日）から十月一日（火）二泊三日
- 交通手段 トランスポーティシャンバス
- 最低催行人員 十五名
- 旅費 一人 八万七千円
- 募集締め切り 八月三十一日（土）

子どもたちに夢を届けたいという思いから、今年で十七回目を迎えました。みなさまのご協賛に感謝申し上げます。

ご芳志 一口 三千円より

【振込先】新庄信用金庫

本店 普通〇〇〇一四一〇

（宗）圓満寺代表役員 山尾順紀

おさそい

秋の三山参拝旅行

記念事業の一環として、真言宗智山派、

三つの大本山参拝旅行を企画しました。

初日は成田山新勝寺を参拝し、木更津三日月温泉泊。二日目は靖国神社と明治神宮、昼食は有楽町「天米」、川崎大師平間寺へ。夕食は中華街、横浜泊。三日目は高尾山薬王院へ。精進料理の昼食を摂り、帰路に。

- ・締め切り後、説明会を行います。
- ・多数の参加をお待ちしております。

【例 大祭のご案内】

歓喜天夏祭り

▽七月二十八日（日）正午 歓喜天堂

- 華水供祈祷
- 大護摩奉修

家内安全・所願成就

- 昼食会（直会）精進料理
- 会費 一千五百円（代参 千五百円）

▽七月二十八日（日）午後七時半

●子ども・夢

・花火大会



上 成田山 下 高尾山



（宗）圓満寺代表役員 山尾順紀



いざさらば
今宵はここに
円満寺

祈りの声を

耳にふれつつ

南無大師遍照金剛

小杉山吉祥院円満寺

流しそうめん大会

▽七月二十七日（土）

正午（参加無料）

※神輿は中止と

いたします。

◎寺子屋

●日時

七月三十日（火）、三十一日（水）

八月一日（木）午前八時半から十二時

●場所 円満寺本堂

●対象 小学生

●内容 夏休みの宿題・念珠つくり

写仏でうちわつくり・子ども半
袈裟つくり

●参加費 千円（材料代・保険代）

●申し込み 七月十五日（月）まで



子ども半袈裟



お盆つて？

＝仏事Q&A＝

八月の声が近づいてきました。今回はお盆についてお話しします。

お盆は、お釈迦様

もくれん

の弟子である目連

尊者が、餓鬼道と

がきどう

いう苦しい世界に墮ちてしまつた亡き母

を、雨期に行う厳しい修行の最終日（七月十五日）に、修行者たちをもてなした

功德によつて救つた、という『仏説

うらぼん

盂蘭盆經』のお話が元になつています。

お盆はサンスクリット語で「ウラボン」

と言ひます。漢字を当てる「盂蘭盆」となります。

お盆の期間は八月十三日から十六日まで（関東などでは、七月に行う地域も）が多く、亡き人や「先祖さまの精靈をわ

が家にお迎えして供養し、家族と亡き人がともに過ごします。

この期間は、私たち家族のつながりや他者を思いやる気持ちを育んでくれる大切な時間です。ともすれば忘れがちになる、ご先祖さまから連なる歴史の積み重ねの上に今日の自分があるという「いのちのつながり」に気づく時でもあります。

また、四十九日忌（場合によつては三十五日忌）の法事が済んで初めて迎える

お盆のことを「新盆」（にいほん・しんほん・あらほん）などと呼びます。



新庄聖天 円満寺

〒996-0001

新庄市五日町五九一四

電話 0233(22)0433
ファックス (32)0166
令和六年七月十日発行 発行人山尾瑛紀